

# 第 787 回 新潟医学会(オンライン講演会)

第 787 回新潟医学会・オンライン講演会を下記の要領によって開催致しますのでご案内申し上げます。  
大学院生、学部学生の皆様、看護師、医療関係者の方々の出席を歓迎します。参加料は無料です。

ZOOM URL については新潟医学会事務局にメールでお問い合わせください。

日 時 令和 6 年 7 月 18 日 (木) 18:00 から

新潟医学会集会幹事

記

## I. 特別講演 (18:00~18:30)

座長 川島 寛之 先生

(整形外科・リハビリテーション学 教授)

「思春期特発性側弯症の長期経過」

大橋 正幸 先生

(整形外科・リハビリテーション学 准教授)

思春期特発性側弯症は原因不明の脊柱の左右への弯曲変形であり、側弯の進行は身体機能や心理面に悪影響を及ぼす。重症例には小児期に手術を適応するが、あくまで将来的な側弯の進行を防ぐための「予防的手術」であり、その効果は長期経過観察により初めて明らかとなる。我々は平均 25 年間の長期追跡調査を行い、世界に向けて情報発信してきたので、その成果と今後の展望を紹介する。

## II. 特別講演 (18:30~19:00)

座長 馬場 洋 先生 (麻酔科学 教授)

「より効率的な手術部の運営を目指して」

三島 健人 先生 (手術部 准教授)

手術部に求められる役割は多くあるが、特に近年収益に対する貢献が益々求められてきている。ただし、収益の改善への取り組みは、手術部で働く・利用する多くの方々にとってあまりに大きな痛みを伴うものであってはならない。収益の改善は、収入の増加と支出の抑制という 2 方向からなされるものである。私が手術部副部長を拝命して以来行った両方向に対する施策について紹介したい。

## III. 特別講演 (19:00~19:30)

座長 堀井 新 先生

(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授)

「シスプラチン不耐頭頸部癌に対する治療最適化の取り組み」

植木 雄志 先生

(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 准教授)

頭頸部癌に対する薬物療法のキードラッグはシスプラチンであるが、高齢や腎機能不良といったフレイルな集団には不適とされる。これらの症例に対する標準治療は確立されておらず、本県のように高齢者が占める割合が高い地域においては、シスプラチン不耐頭頸部癌に対する適切な治療戦略が必要となる。本発表では、県内多施設共同で行ったシスプラチン不耐進行頭頸部癌に対する化学放射線療法第 2 相臨床試験の結果をはじめとした、安全性と有効性を両立する新規治療の取り組みをご紹介します。

## IV. 特別講演 (19:30~20:00)

座長 高橋 雅彦 先生 (ウイルス学 准教授)

「ウイルスを認識する自然免疫応答とその生理学的意義」

阿部 隆之 先生 (ウイルス学 教授)

ウイルスは単独で増殖することができない偏性細胞寄生性の微生物であり、ヒトに感染し特有の病原性を示す。ヒトの細胞にはウイルス感染の排除に迅速に機能する自然免疫と、感染記憶により得られる獲得免疫が備わっている。2000 年以降、自然免疫が高度な特異性を持ってウイルス感染を認識・排除していることが明らかとなり、自然免疫応答の重要性がアップデートされた。本稿では、筆者のこれまでの基礎研究成果を交えながら、自然免疫研究の変遷について解説する。

新潟県医師会生涯教育講座の認定を申請しております。

**大 学 院 特 別 講 義**

(連絡先) 新潟医学会事務局

TEL 025-227-2032

e-mail igakukai@med.niigata-u.ac.jp